

# 中央区内景气动向调查

平成 18 年 10 月调查结果

平成 18 年 11 月 10 日

中央区

## 総 括

### 平成 18 年 10 月の動き

中央区内における 10 月の現状判断 D I は合計で 54.2 と、前回調査から 4.2 ポイント上昇し、3 か月前と比べて横ばいを示す 50.0 を上回る結果となった。景気の先行き判断 D I においても引き続き 50.0 以上の水準を上回る結果となっている。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I (合計)

( D I )	平成18年			前回調査 からの変化
	6月	8月	10月	
合計				
現状判断 D I	56.8	50.0	54.2	( 4.2 )
先行き判断 D I	52.1	51.1	55.2	( 4.1 )

## 目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

## 調査の概要

### 1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

### 2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

### 3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

### 4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、平成 18 年 10 月調査の調査票発送は 10 月 6 日（金）、回答期限は 10 月 17 日（火）である。

### 5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である財団法人日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

### 6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 48 名、有効回答率は 96.0%であった。

### 7 DI の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DI を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

# 1 景気の現状に対する判断

中央区内における10月の現状判断DIは合計で54.2と、前回調査から4.2ポイント上昇し、3か月前と比べて横ばいを示す50.0を上回る結果となった。分野別にみると、家計動向関連DIが前回調査から7.2ポイント上昇して58.3となり、企業動向関連DIも前回調査を1.0ポイント上回った。3か月前と比べ「やや良くなっている」と回答する人の割合が大きく増加している。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

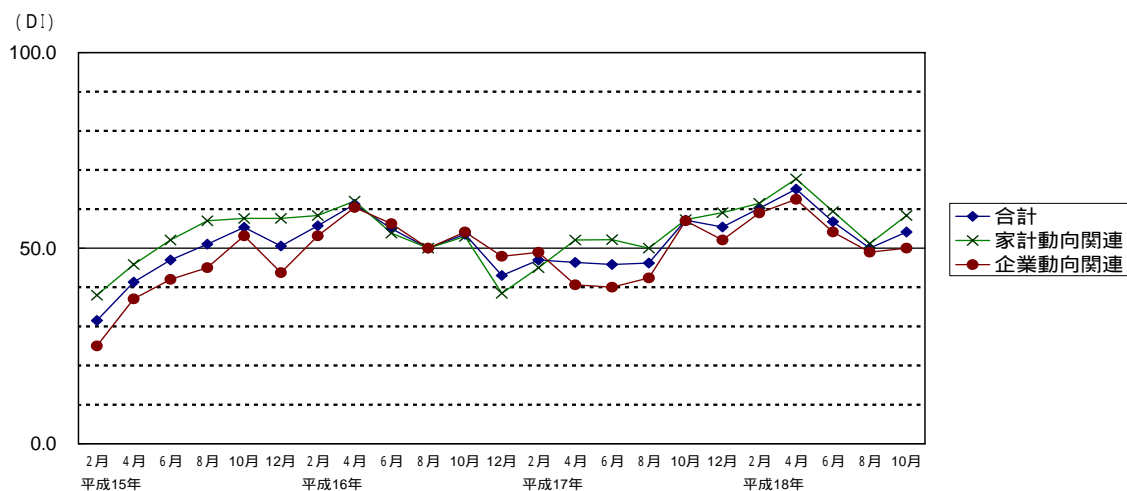
(DI)	平成18年			
	6月	8月	10月	(変化幅)
合計	56.8	50.0	54.2	(4.2)
家計動向関連	59.4	51.1	58.3	(7.2)
小売関連	58.3	52.5	64.6	(12.1)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	60.7	46.4	50.0	(3.6)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	54.2	49.0	50.0	(1.0)
製造業	45.0	54.2	33.3	(-20.9)
非製造業	56.6	47.4	55.6	(8.2)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成18年	6	4.2%	35.4%	43.8%	16.7%	0.0%
	8	4.3%	14.9%	59.6%	19.1%	2.1%
	10	4.2%	33.3%	41.7%	16.7%	4.2%
(変化幅)		(-0.1)	(18.4)	(-17.9)	(-2.4)	(2.1)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



## 2 景気の先行きに対する判断

中央区内における景気の先行き判断D Iは引き続き 50.0 以上の水準を上回る結果となっている。分野別にみると、家計動向関連D Iは前回調査から 3.1 ポイント上昇して 54.2 となり、企業動向関連のD Iも 5.3 ポイント上昇し、56.3 となっている。3 か月後は「良くなる」と回答する人の割合が 6.2 ポイント増加している。

図表 2 - 1 各分野における景気の先行き判断D Iの推移表

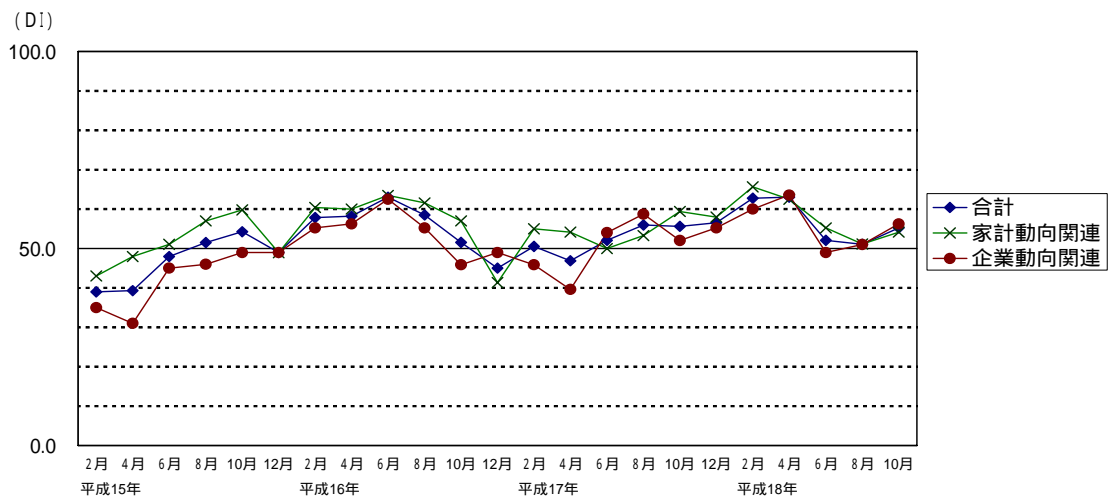
(D I)	平成18年			
	6月	8月	10月	(変化幅)
合計	52.1	51.1	55.2	(4.1)
家計動向関連	55.2	51.1	54.2	(3.1)
小売関連	54.2	47.5	54.2	(6.7)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	57.1	50.0	46.4	(-3.6)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	49.0	51.0	56.3	(5.3)
製造業	55.0	45.8	50.0	(4.2)
非製造業	47.4	52.6	58.3	(5.7)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表 2 - 2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成18年	6	0.0%	29.2%	52.1%	16.7%	2.1%
	8	2.1%	25.5%	48.9%	21.3%	2.1%
	10	8.3%	25.0%	47.9%	16.7%	2.1%
(変化幅)		(6.2)	(-0.5)	(-1.0)	(-4.6)	(0.0)

図表 2 - 3 各分野における景気の先行き判断D Iの推移



### 3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

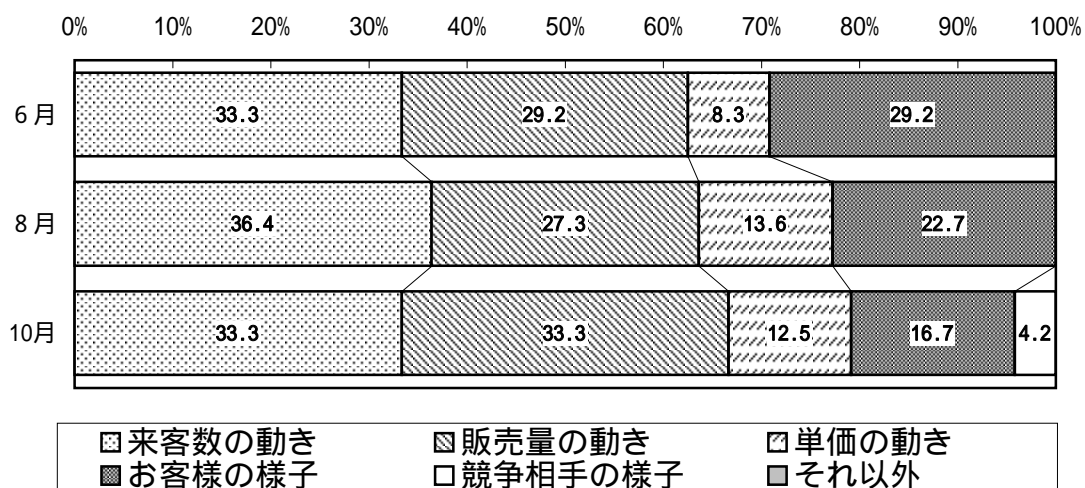
(D I)	平成18年		
	6月	8月	10月
合計	55.7	49.5	49.5
家計動向関連	63.5	50.0	55.2
小売関連	64.6	50.0	54.2
飲食関連	-	-	-
サービス関連	64.3	46.4	57.1
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	47.9	49.0	43.8
製造業	45.0	54.2	33.3
非製造業	48.7	47.4	47.2

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

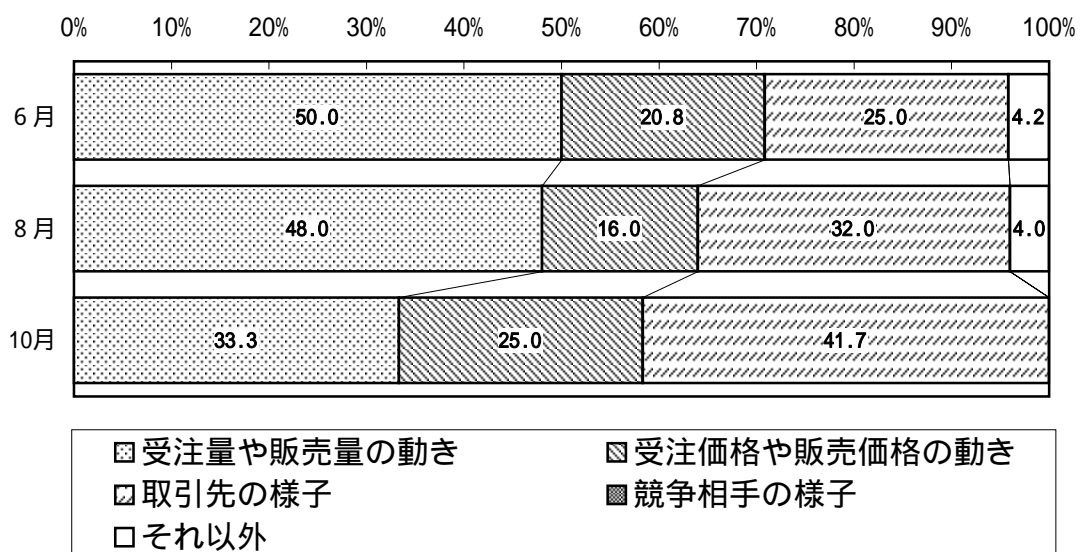
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

## 4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

### 家計動向関連



### 企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。  
割合が0%の場合、数値は表記していない。



## 4 (2) 景気の現状に対する判断理由

( - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	一般小売店 〔靴〕(営業担当)	お客様の様子	・来客数が上昇すると同時に客の購買意欲も高まっており、買上率が上昇している。
	やや良くなっている	百貨店(販売促進担当)	お客様の様子	・最近特に中国系の来客が目立つ。不景気という声は耳にしない。
		スーパー(店長)	来客数の動き	・競争相手が増えてから間もないので現在はあまり変化がない。ここ1か月くらいで悪くなることもあり得るが、今のところ来客数と売上に大きな低下がないので、多少上向いている。
		コンビニ(経営者)	単価の動き	・客単価が上がってきている。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・来客数が2か月連続で大幅に増加している。その割に客単価も落ちておらず、順調に売上が伸びている。
		高級レストラン(スタッフ)	販売量の動き	・限定商品の売行きがとても良く、販売量が増加している。
		都市型ホテル(広報担当)	来客数の動き	・宿泊の高稼働及びレストランの利用客増加により、やや良くなっている。
	変わらない	設計事務所(所長)	単価の動き	・販売量、単価共に良くなっている。
		百貨店(広報担当)	販売量の動き	・来客数、売上共に変化がみられない。ただし、顧客層を明確にした催し物は全て順調に推移している。
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・宴席予約が終了し、小口の注文が圧倒的に増加しているが、いずれも個室の希望が多く、見込み定員を大きく下回っている。例年ならば繁忙月となるが、今年は予約の入り方も低調である。
		都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・客が価格に敏感になっており、少しでも安いほうに流れていく傾向にある。稼働率も良くて前年並み、悪い月は前年を割り込んでいる。
	やや悪くなっている	通信会社(営業担当)	販売量の動き	・夏のキャンペーン以降、特に顕著な販売数の伸びがみられない。
		一般小売店〔和菓子〕(経営者)	販売量の動き	・単価が下がった上に来客数が上向いてこない。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・7～9月は例年良いので、10、11月はどうしても悪くみえてしまう。
通信会社(営業担当)		販売量の動き	・自社の主力商品にトラブルが発生したこともあり、売行きにかなりのダメージがあり、伸び悩んでいる。	
その他レジャー施設(経営者)		来客数の動き	・この2か月の間に近隣の同業者2軒が廃業したが、来客数は以前と全く変わっていない。昔なら必ず幾組か知らない客が来たものである。	
悪くなっている	-	-	-	
企業 動向 関連	良くなっている	その他サービス業〔情報サービス〕(経営企画担当)	取引先の様子	・旧データ集約、集中化等、先を見通した投資案件が増加傾向にある。
	やや良くなっている	出版業(経営者)	取引先の様子	・人々の動き、商店での買物に活気がある。
		輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・タクシーの受注量は前年よりやや良くなっている。ハイヤーの法人受注は横ばいであるが、介護、福祉の利用者は増えている。
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・荷主先メーカーの新製品出荷に伴い受注が増加している。また、同業他社の車両減、転廃業の影響でも受注が増加している。
	経営コンサルタント	取引先の様子	・商品が動き出してきた。それも、ただ動いているのではなく、日々動きが加速してきている。売上増は見込めるようになるが、利益が増加するにはまだ時間が掛かる。	
変わらない	通信業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・受注量、販売量が横ばい状態にある。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業〔証券〕 (営業担当)	取引先の様子	・住宅販売や一部の工業生産における好況感はあるようだが、キャッシュフロー全般にみた場合、長期金利も横ばいが続き、企業の財務キャッシュフローにも積極性が感じられない。今後は北朝鮮の問題も含めた地政学的リスクの顕在化も合わせ、当面は様子見となる。
		卸売業〔機械器具〕(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・原材料の価格が落ち着いてきたようである。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・新規受注及び金額改定等、特に新しい動きがないので、変わらない。
	やや悪くなっている	新聞業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・これまでは特定の業種の広告出稿が落ち込んでも、他にカバーするものがあつたが、今は大きくカバーするものがない状態が続いている。
		新聞業(経営者)	取引先の様子	・景気の悪さから、広告宣伝費を削ることによって経費を安く上げようとしている節が見受けられる。
	悪くなっている	出版業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・当初売行き良好と見込んでいた商品が思うように伸びず、9月に入ってから返品数が一気に増加している。除却をしても1週間で返品数が上回る状況である。

#### 4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

( - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	都市型ホテル（広報担当）	・これからクリスマス、年末年始に向かい、レストラン、宴会場の利用が多く見込まれる。
	やや良くなる	百貨店（販売促進担当）	・石油の原油価格が1リッター145円から131円に戻り、経済が安定してきた。原油価格が安定すると、生産、消費も多くなるので、これからは期待できる。
		スーパー（店長）	・大型ショッピングセンターが開店し、新築のマンションも増えたので、人の流れが変わり、あまり悪くなる理由はない。
		衣料品専門店（店長）	・外国人、日本人共に当地を訪れる旅行者からの売上が増加する。
		高級レストラン（スタッフ）	・徐々にではあるが、客単価が上昇し、販売量が増加しつつある。
		一般レストラン（経営者）	・12月は忘年会、1月は新年会など色々なことがあるので、例年通り少しは忙しくなる。
		設計事務所（所長）	・今年中は仕事量も多く、少しずつ良くなっている。
	変わらない	一般小売店〔靴〕（営業担当）	・確かに購買意欲は出てきているようだが、今後も持続するかについては不透明な部分がある。流行の先物買いの傾向もあるような状況である。
		百貨店（広報担当）	・ターゲットを絞り込んだ催し物の売上は好調だが、一般の売場については、平行線をたどる見込みである。
		百貨店（総務担当）	・当店の売上は9度も堅調に推移したが、原油価格動向等の懸念材料があり、予断を許さない状況が続くため、変わらない。
		百貨店（売場主任）	・クリスマス商戦、年末商戦を迎えるに当たり、身の回りの景気に変動をもたらすような要因が今のところ見当たらない。近隣でリニューアルオープンがあったが、当初の盛り上がりだけで継続していない。人の流れも元に戻っている。
		百貨店（売場主任）	・冬らしい寒さで商品の生産量も好調であった昨年と比較し、押され気味の流れのなか、大きな売上高の伸長は望めない。
		スーパー（店長）	・競争相手が増えたので、決して良くなるとは考えられない。現状維持が当面の目標である。
		コンビニ（店長）	・ここ数か月はやや良くなったり、悪くなったりを繰り返しており、さほど状況は変わっていない。今後2～3か月先も同じ流れになる。
		コンビニ（経営者）	・そんなに急には良くならない。
		高級レストラン（経営者）	・例年年末は宴会シーズンで忙しくなるが、安価の同業店へ客が流れていると聞いており、前年比で考えると期待できそうにない。
		一般レストラン（経営者）	・客に購買意欲が見受けられない。
		都市型ホテル（経営者）	・当業界は過当競争が激しく、乱立気味で、価格競争におちいつている。
		旅行代理店（営業担当）	・何か景気が良くなる材料が出てくれば、状況は更に良くなる。
		やや悪くなる	一般小売店〔和菓子〕（経営者）
通信会社（営業担当）			・9月下旬の当社サービス故障の影響が多少出てくると思われるため、やや悪くなる。
通信会社（営業担当）	・自社商品がトラブルを起こしたため、客の信頼を回復する努力で精一杯となりそうである。		
その他レジャー施設（経営者）	・マスコミのいう景気の良さは実感として全く感じられない。家の周囲の飲食店からも悲鳴のみで良い話は一つも聞かれない。		
企業 動向 関連	悪くなる	-	-
	良くなる	印刷業・製本業（総務担当）	・時期的な消費拡大で良くなる。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営企画担当）	・先行投資案件が継続中のため、良くなる。
やや良くなる	出版業（経営者）	・あと1年くらいはこの好況が続き、その後は分からない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（営業担当）	・業界で小零細業者の転廃業が目立つなか、大手運送会社にな い小回りの利く業務展開を目指すことにより、同規模クラスの 業界において業態は上向く。
		通信業（営業担当）	・新政権に期待している。
		金融業〔証券〕（営業 担当）	・北朝鮮の地政学的リスクはあるものの、季節要因、米国株高 に伴い消費者心理は好転する。原油下落、円安も寄与する。
		経営コンサルタント	・銀行の中小企業向け融資が増加している。審査が緩和されて 融資が受けやすくなったようで、設備投資に積極的になる会社 が散見される。
	変わらない	印刷業・製本業（経営 者）	・業界、そして仕入先からも良い答えは得られない。
		建設業（営業担当）	・公共工事の縮減で受注量が減少し、各社が大幅な安値での受 注競争に入っている。採算を度外視した競争に入り、取るも地 獄、取らぬも地獄の状況が続いている。
		輸送業（従業員）	・天候条件に左右される業種ではあるが、今後2～3か月先は 変わらない。
		金融業〔証券〕（営業 担当）	・労働需要の増大の割には、実感とした消費性向の高まりが感 じられない。構造的には非正社員化やニートの拡大もあったの だろうが、地価や家賃等の上昇分が消費価格に転嫁される傾向 もみられていることから、景況感としては強めの判断は難し い。
		卸売業〔建築材料、鋳 物・金属材料等〕（従 業員）	・受注動向からみて、変わらない。
		卸売業〔機械器具〕 （従業員）	・公共事業の受注価格低下は続いており、採算性の悪化は変わ らない。
卸売業〔機械器具〕 （経営者）		・年末の仕事量の予想がはっきりしないが、その前までは変わ らない。	
広告代理店（営業担 当）		・クライアント各社の業績は良いが、広告宣伝費は例年並み で、見通しがはっきりしない。	
やや悪くなる		その他サービス業〔ビ ルメンテナンス〕（営 業担当）	・年末年始はスポット業務が増加する見込みだが、継続的な景 気回復になるとは思えない。
		新聞業（営業担当）	・厳しい現状はまだ続きそうである。上向く要素より悪い要素 のほうが多い。
		出版業（営業担当）	・現在も悪い状態であるが、良くなる見通しが立たない。今後 は8月に大量出荷した分の返品が増加する。
悪くなる		建設業（経営者）	・他産業は別だろうが、建設業界は競争激化で悪くなる。
		卸売業〔繊維・衣服 等〕（営業担当）	・当業界では8月後半から急速に販売が落ちており、今後まず まず状況が悪化する見込みである。

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)	
合計		50	
家計動向関連	小売関連	25	
	商店街・一般小売店	13	
	商店街代表者	2	
	一般小売店経営者・店員	0	
	百貨店	5	
	百貨店売場主任・担当者	5	
	スーパー	2	
	スーパー店長・店員	2	
	コンビニエンスストア	2	
	コンビニエリア担当・店長	2	
	衣料品専門店	2	
	衣料品専門店経営者・店員	2	
	家電量販店	0	
	家電量販店経営者・店員	0	
	乗用車・自動車備品販売店	0	
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0	
	その他小売店	0	
	住関連専門店経営者・店員	0	
	その他専門店経営者・店員	0	
	その他小売の動向を把握できる者	0	
	飲食関連	4	
	高級レストラン経営者・スタッフ	2	
	一般レストラン経営者・スタッフ	2	
	スナック経営者	0	
	その他飲食の動向を把握できる者	0	
	サービス関連	7	
	旅行・交通関連	3	
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0	
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2	
	旅行代理店経営者・従業員	1	
	タクシー運転手	0	
	通信会社	2	
	通信会社社員	2	
	レジャー施設関連	2	
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0	
	ゴルフ場経営者・従業員	0	
	パチンコ店経営者・従業員	0	
	競輪・競馬・競艇場職員	1	
	その他レジャー施設職員	1	
	その他サービス	0	
	美容室経営者・従業員	0	
	その他サービスの動向を把握できる者	0	
	住宅関連	1	
	設計事務所所長・職員	1	
	住宅販売会社経営者・従業員	0	
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0	
	その他家計の動向を把握できる者	0	
	企業動向関連	農林水産業従業者	25
		鉱業経営者・従業員	0
		製造業経営者・従業員	6
食料品製造業		0	
繊維工業		0	
家具及び木材木製品製造業		0	
パルプ・紙・紙加工品製造業		0	
出版・印刷・同関連産業		6	
新聞業		2	
出版業		2	
印刷業・製本業		2	
その他出版・印刷・同関連産業		0	
化学工業		0	
石油製品・石炭製品製造業		0	
プラスチック製品製造業		0	
窯業・土石製品製造業		0	
鉄鋼業		0	
非鉄金属製造業		0	
金属製品製造業		0	
一般機械器具製造業		0	
電気機械器具製造業(精密機械を含む)		0	
輸送用機械器具製造業		0	
その他製造業		0	
非製造業経営者・従業員		19	
建設業		2	
輸送業		2	
通信業		2	
金融業		2	
不動産業		0	
卸売業		7	
繊維・衣服等		2	
飲食品		1	
建築材料・鉱物・金属材料等		1	
機械器具		3	
その他卸売業		0	
サービス業		4	
広告代理店・新聞販売店[広告]		1	
司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等		1	
コピーサービス業		0	
その他サービス業		2	
その他非製造業	0		
その他企業の動向を把握できる者	0		